
概 况

1 府中町概況

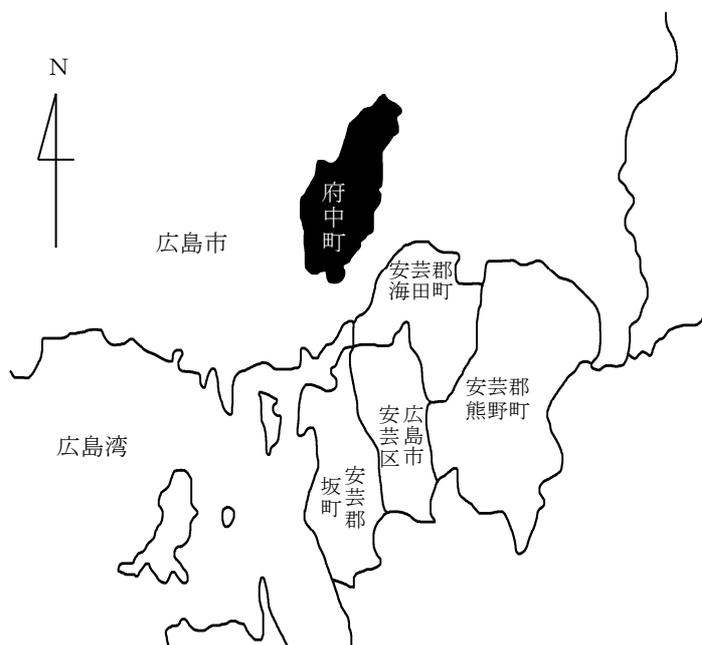
令和4年4月1日

位置	北緯 34° 26′ 東経 132° 30′
面積	10.41km ²
広ぼう	東西 4.18km 南北 5.20km
人口	52,935人 男25,999人 女26,936人
世帯数	23,720世帯

府中町は広島市の広域合併の進行により、周囲を広島市にかこまれ、広島市中心部から約4キロメートル、広島県安芸郡の北部に位置し、その面積は10.41平方キロメートルである。土地は一般に南西に傾き、北部の山岳・丘陵地帯が総面積の約5割を占め、平野は南部に開けている。町の北部から東部にかけて標高500メートル以下の低い山々が連なり、その丘陵を宅地として開発し、急激な変容をなしている。

郡第一の高山、呉娑々宇（五社総山・682メートル）に源を発し、町を流れる榎川も総延長わずか3.5キロメートルにすぎず、夏期には時々濁水を見る。

海岸線は、南西部に約1.1キロメートルで現在は工業用地に埋め立てられ、利用されている。



昭和35年ごろまでは田園の町として農家戸数も全世帯の約1割であったが、広島市のベッドタウンとして住宅地に好適なため急激に発展をはじめ、標高70メートル以下の丘陵地帯は開発され、田・畑のほとんどが宅地に転用され住宅街に移り変わるとともに、また、マツダ(株)を中心とする多くの工場とキリンビール(株)広島工場が立地し、工業の町として発展してきた。

しかし、バブル経済の崩壊以後、マツダ(株)関連事業所の町外移転や

キリンビール(株)広島工場の閉鎖など工業の町の性格が薄れつつある中で、大型マンションの建設やキリンビール(株)広島工場跡地には平成16年3月に中・四国地方の最大規模となる大型ショッピングセンターがオープンし、平成22年4月には広島高速2号線が開通するなど町を取り巻く環境は大きく変貌しようとしている。また、平成30年7月の豪雨により、町内の複数箇所です砂災害が発生するとともに、榎川が氾濫したことから崩壊区域の復旧を進めるとともに、災害に強い府中町となるよう全力で取り組んでいる。

2 町の沿革

当町は往古安芸の国府として、広くその名を知られ、国府庄または府中荘とも呼ばれ、現在それを立証する地名や遺跡が残っている。

明治維新後当町に庄屋1名を置き、郡に4名の割庄屋が置かれ統括にあたった。明治7年数村を合して小区とし、各村に戸長1名を置き、小区を合して大区とした。当町は第三大区に属し、単独で第一小区となった。明治11年区制を廃し、各村に民選戸長1名を置き、明治17年には制度の改正により、各村とも民選戸長1名を置いて管轄した。明治22年市町村制が公布され、府中村となり、村長、助役、収入役及び村会議員12名を置き、明治25年役場庁舎を字経免2878番地の5に新築した。また大正9年には国鉄向洋駅が開設された。昭和12年には町制施行、単独で府中町となり現在に至っている。

3 消防の沿革

明治28年……………（府中村消防組発足）

明治27年2月に勅令第15号をもって消防組規制が制定され、明治28年頃村の中部及び北部を中心に消防組が創設され、初代組頭、保田竹次郎氏以下20数人で組織された。

当時、村の中部に腕用ポンプ1台を配置していたが、中央部から遠隔地に位置する鹿籠地区（南部）においても、漸次、消防体制増強の声が高まり、大正7年1月府中村消防組（南部）が誕生し、腕用ポンプ1台を購入配置した。後年、消防組は北部、中部及び南部に分割され、各部に腕用ポンプ1台を配置して、体制を強化した。

昭和12年……………（町制施行による公設消防組）

昭和12年には町制施行、単独府中町となり、消防組は「府中町公設消防組」と改め従来の北部、中部及び南部をそれぞれ第1部・第2部及び第3部と改称した。

歴代消防組頭

歴代	氏名	就任年月	退職年月
初代	保田 竹次郎	明治28年頃	大正7年
2代	三宅 福太郎	大正7年～昭和8年	
3代	石田 繁司		
4代	賀屋 勝	昭和8年～昭和14年	
5代	高田 佐太郎		

昭和14年4月1日……………（府中町警防団設置）

当時内務省は、防空消防の重要性を考慮し、明治27年以来の消防規制を廃止し、勅令第20号をもって警防団令を公布、水火消防のほかに防空及びその他の警防に従事する強力な団体に切りかえられたので、当町も、従来の消防組を警防団長・田村篤実氏以下200人で組織し、手挽ガソリンポンプ1台を増設した。

歴代警防団長

歴代	氏名	就任年月	退職年月
初代	田村 篤実	昭和14年4月	昭和20年
2代	前田 昇一	昭和21年	昭和23年

昭和23年3月7日……………（府中町消防団設置）

昭和22年12月23日、消防組織法の公布に伴い、府中町消防団条例を制定、昭和23年、従来の警防団に代わり府中町消防団が設置され、初代消防団長・前田昇一氏以下約150人で組織された。なお、従来の第1部・第2部及び第3部は、それぞれ第1分団・第2分団及び第3分団と改称され現在に至っている。

昭和34年8月13日……………（消防ポンプ車購入）			
マツダ34年式	1, 500cc	日機1, 500ℓ/min	第2分団
昭和36年10月2日……………（消防ポンプ車購入）			
マツダ36年式	1, 500cc	日機1, 500ℓ/min	第3分団
昭和38年3月25日……………（消防ポンプ車購入）			
マツダ38年式	1, 500cc	日機1, 500ℓ/min	第1分団
昭和42年4月1日……………（消防本部、消防署設置）			
府中町消防本部発足			
消防長（町長） 月藤 宇左吉			
府中町消防署発足			
消防署長 宮崎 直治 以下13人			
中型消防ポンプ自動車	1台	整備	
昭和43年10月1日			
小型動力ポンプ付積載車	1台	整備	
警防要員	2人	増員	（定員15人となる。）
昭和44年6月1日			
B級救急自動車	1台	整備	
救急要員	4人	増員	（定員19人となる。）
昭和45年7月1日			
指揮調査車	1台	整備	（キリンビール広島工場寄贈）
昭和45年10月1日			
警防要員	3人	増員	（定員22人となる。）
昭和46年10月1日			
警防要員	4人	増員	（定員26人となる。）
昭和47年11月10日			
水槽付消防ポンプ自動車	1台	整備	
昭和48年9月1日			
警防要員	1人	増員	（定員27人となる。）
昭和48年10月15日			
消防団車両	3台	整備	
昭和49年10月1日			
警防要員	2人	増員	（定員29人となる。）

昭和51年3月25日 新消防庁舎落成	鉄筋コンクリート造3階建 建築面積 445.385 m ² 延面積 884.683 m ²
昭和51年4月15日	新消防庁舎業務開始
昭和51年12月9日 普通消防ポンプ自動車	1台 整備
昭和51年12月15日 2B級救急自動車	1台 整備 (日本損害保険協会寄贈)
昭和52年4月1日 救急要員	2人 増員 (定員31人となる。)
昭和53年11月8日 指揮車	1台 整備 (安芸府中ライオンズクラブ寄贈)
昭和53年12月21日 24mはしご付消防ポンプ自動車	1台 整備
昭和54年12月20日 小型動力ポンプ付積載車	1台 整備
昭和56年6月1日 救急要員	1人 増員 (定員32人となる。)
昭和56年8月1日 救急要員	1人 増員 (定員33人となる。)
昭和57年5月8日 2B級救急自動車	1台 整備 (広島ガス株式会社寄贈)
昭和57年9月1日 消防課を設置	1課4係 (庶務係・警防係・予防係・指導係)
昭和59年2月28日 水槽付消防ポンプ自動車	1台 整備
昭和60年7月5日 広報調査車	1台 整備
昭和60年12月25日 普通消防ポンプ自動車	1台 整備
昭和62年9月16日 消防団車両 (CD-I)	3台 整備
昭和63年10月27日 指揮車	1台 整備 (安芸府中ライオンズクラブ寄贈)
昭和63年12月2日 2B級救急自動車	1台 整備
平成元年5月1日 予防課設置 (2課4係)	消防課 (庶務係・警防係) 予防課 (予防係・指導係)
平成元年12月6日 小型動力ポンプ付積載車	1台 整備

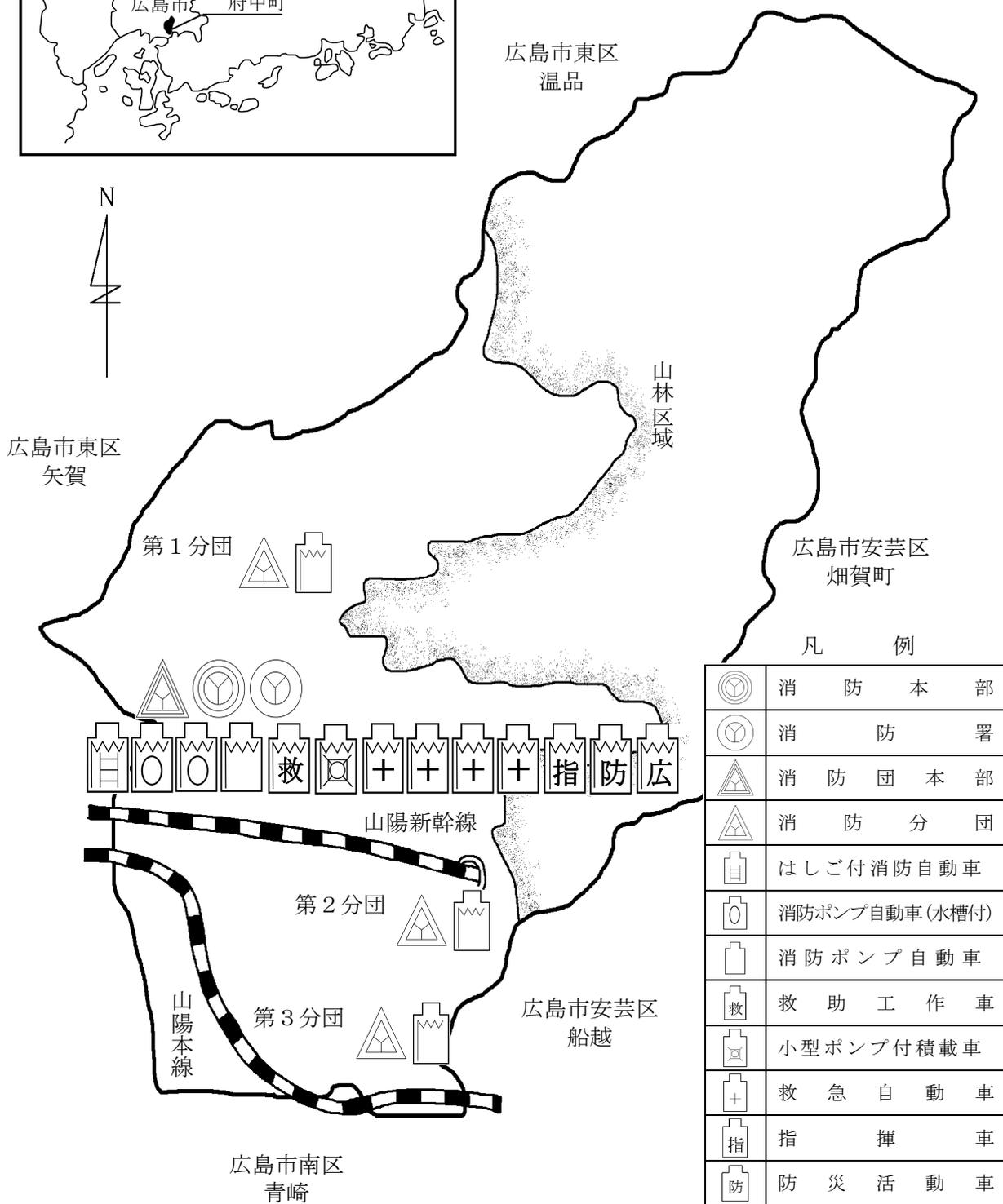
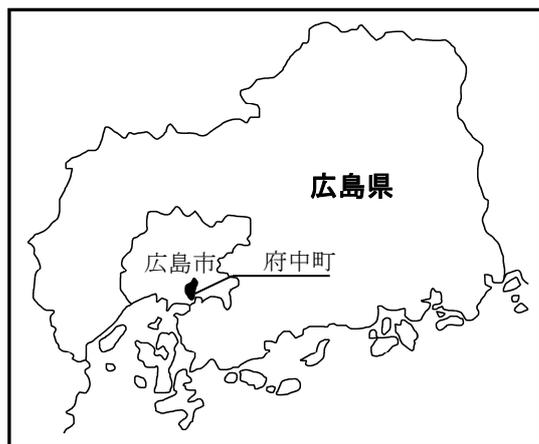
平成2年4月1日 はしご要員	6人 増員 (定員39人となる。)
平成2年12月12日 消防庁舎車庫増設	鉄筋スレート造 建築面積 37.5 m ² 延面積 30.0 m ²
平成3年1月30日 救助工作車 (I型)	1台 整備
平成4年3月24日 消防団車庫落成 (第3分団)	鉄筋造ALC板瓦葺 建築面積 48.6 m ² 延面積 97.2 m ²
平成5年4月1日 警防要員	8人 増員 (定員47人となる。)
平成5年11月18日 普通消防ポンプ自動車	1台 整備
平成7年3月31日 高規格救急車	1台 整備
平成8年12月27日 水槽付消防ポンプ自動車	1台 整備
平成10年12月15日 広報調査車	1台 整備 (安芸府中ライオンズクラブ寄贈)
平成11年2月17日 消防庁舎車庫増築	(工事費 13,500,000 円) 建築面積 68.4 m ² 延面積 91.8 m ²
平成11年3月24日 30mはしご付消防自動車	1台 整備
平成11年11月9日 119番通報装置構築	
平成13年8月1日 高規格救急車	1台 整備
平成14年4月1日 救急2台体制整備	6人増員計画中 2名増員 (定員53人、実員49人となる。)
平成14年4月1日 消防署組織機構の改正	消防司令官、副司令官制度の導入 署の係制度の廃止
平成15年4月1日	2人 増員 (定員53人、実員51人となる。)
平成16年4月1日	消防課に救急救助係を設置
平成16年4月1日	2人増員 (定員53人、実員53人となる。) (うち1名女性消防吏員採用)
平成17年4月1日	2人補充 (うち1人女性消防吏員採用)
平成18年2月28日 庁舎耐震改修工事	消防隊仮眠室間仕切り壁付二段ベッド設置 女性仮眠室設置 消毒室・滅菌室新設

平成19年2月26日 災害対応特殊消防ポンプ自動車（CD-1）1台 整備	
平成19年4月1日	2人 補充（派遣出向1人）
平成19年4月1日	1人 再任用
平成19年8月10日 消火・通報訓練指導車	1台 整備（日本宝くじ協会寄贈）
平成20年4月1日	3人 補充（派遣出向2人）
平成20年4月1日	1人 再任用
平成20年12月4日 はしご付消防自動車	オーバーホール
平成21年4月1日	3人 補充（うち1名女性消防吏員採用） （定員53人、実員50人・派遣出向2人）
平成21年12月3日 災害対応特殊救急自動車（高規格救急車）	1台 整備
平成22年4月1日	3人 補充 （定員53人、実員51人・派遣出向2人）
平成23年3月25日 救助工作車Ⅱ型	1台 整備
平成23年4月1日	1人 補充 （定員53人、実員52人）
平成23年4月1日	1人 再任用
平成24年4月1日	5人 補充 （定員53人、実員51人・派遣出向1人）
平成24年4月1日	1人 再任用
平成25年4月1日	2人 補充 （定員53人、実員50人・派遣出向2人）
平成25年4月1日	2人 再任用
平成26年4月1日	3人 補充 （定員53人、実員51人・派遣出向2人）
平成26年4月1日	2人 再任用
平成26年11月18日 消防団車両（CD-1）	3台 整備

平成26年12月2日 消防団車両（防災活動車）	1台 整備
平成27年4月1日	2人 補充（うち1名女性消防吏員採用） （定員53人、実員51人・派遣出向3人）
平成27年4月1日	2人 再任用
平成28年4月1日 消防救急デジタル無線	運用開始
平成28年4月1日	2人 補充 （定員57人、実員52人・派遣出向3人）
平成28年4月1日	3人 再任用
平成28年11月21日 指揮車	1台 整備
平成29年2月17日 災害対応特殊救急自動車（高規格救急車）	1台 整備
平成29年4月1日	2人 補充 （定員57人、実員54人・派遣出向3人）
平成29年4月1日	1人 再任用
平成29年7月9日 消防団詰所落成（第3分団）	鉄骨造（一部鉄筋コンクリート造）2階建 建築面積 66.61 m ² 延面積 126.00 m ²
平成30年4月1日	2人 補充 （定員57人、実員55人・派遣出向4人）
平成30年4月1日	1人 再任用
平成30年11月13日 普通消防ポンプ自動車（CD-1）	1台 整備
平成31年1月16日 災害対応特種消防ポンプ自動車（CD-1）	1台 整備
平成31年4月1日	1人 補充 （定員57人、実員55人・派遣出向4人）
平成31年4月1日 消防本部組織機構の改正（3課6係）	総務課（庶務係、消防団係）、警防課（警防係、 救急救助係）、予防課（予防係、指導係）
令和2年4月1日	1人 再任用 （定員57人、実員56人・派遣出向4人）
令和3年3月19日 広報調査車	1台 整備
令和3年4月1日	1人 再任用 （定員57人、実員56人・派遣出向3人）

令和4年4月1日	1人 再任用 (定員57人、実員57人・派遣出向2人)
令和4年4月1日	総務課から消防総務課に名称変更

4 管内図

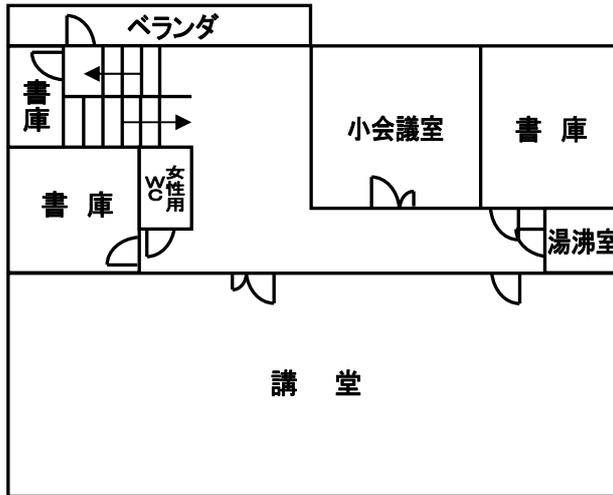


凡 例

	消 防 本 部
	消 防 署
	消 防 団 本 部
	消 防 分 団
	はしご付消防自動車
	消防ポンプ自動車(水槽付)
	消防ポンプ自動車
	救 助 工 作 車
	小型ポンプ付積載車
	救 急 自 動 車
	指 揮 車
	防 災 活 動 車
	広 報 調 査 車
	無 線 機

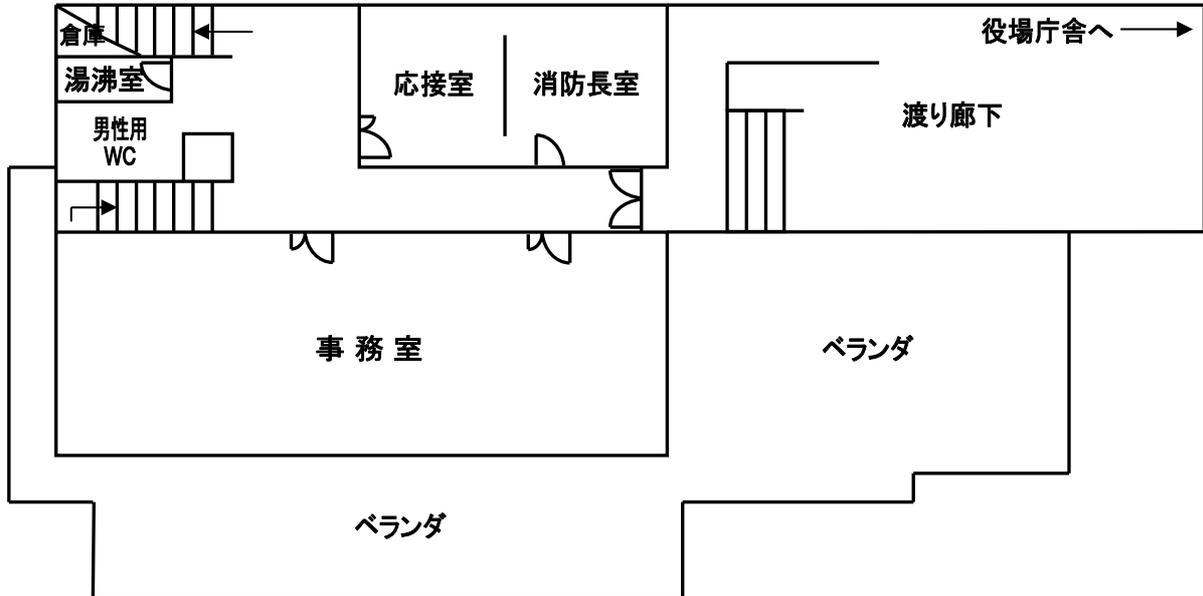
5 消防庁舎の概要

3階



着工年月日 昭和 50 年 9 月
 竣工年月日 昭和 51 年 3 月 25 日
 構 造 鉄筋コンクリート造り
 3階建
 敷地面積 1,236.6 m²
 建築面積 513.8 m²
 延べ面積 976.4 m²
 1階 513.7 m²
 2階 230.0 m²
 3階 232.7 m²
 建築工事費 111,161(千円)
 (増築費用含まず)

2階



1階

